

令和5年度第5回鳥取市青谷町地域生活交通協議会議事概要

日 時:令和6年3月7日(木) 19:00~19:40

場 所:青谷町総合支所 第二・第三会議室

【委員長挨拶】

本日の協議会は、前回の協議会以降の取り組みと、今後の動き、併せて令和6年4月以降の時刻表が完成したのでその概要等について事務局から説明してもらおう。この内容で4月1日からの地域の生活交通をスタートさせていただきたいと考えている。今後は、利用の状況、利用者のニーズ等gを把握して改善をしていきたい。

また、これまでの会議でも説明させていただいているが、市が主体となって生活交通を確保するというのは当面の間としている。今後は各地区共助交通の導入等について検討をお願いしたい。この検討状況や情報共有、対応等で委員の皆様には引き続きご協力をお願いする。

【資料の説明】

【質疑応答】

委 員:試験運行に3日間で 156人の利用者があったそうだが、多くの方が利用されたと解釈すればよいか。

事務局:今の路線バスの利用状況が1便あたり1人ほど。今回の試験輸送が1便あたりおよそ3人。利用が多かったという実績が出ている。また「私も利用すればよかった」という声も聞いている。

委 員:耳の聞こえない方にはLINEで予約していただく対応もされると聞いたが、可能であればLINEで予約できることを周知できないか。

事務局:検討させていただく。

委 員:定期券は小学生用だけか。

事務局:大人用もある。産業建設課にて購入の手続きが可能。

委 員:共助交通に向けて各地区で検討していただきたいと言われたが、各地区でバラバラに検討するより、全体で方針を決めた後でそれぞれの地区で考えるという進め方をしたほうがよいのではないか。

事務局:地域の課題を集約し、その解決に向けて取り組んでいく「まちづくり協議会」が各地区にある。地域の生活交通をどう維持・確保するのかという問題は地域の大きな課題だと思う。そのため、まちづくり協議会にまず検討をお願いしたい。3月12日にまちづくり協議会の事務局長が集まる会があるので、その場でこのことをお話し

せていただく予定である。

委員:フリー乗降区間の範囲は今の路線バスと一緒に考えていいのか。

事務局:そのとおりと考えている。

委員:フリー乗降になるということは、運行ルート上においてバス停以外の場所でも乗降できるように予約することが可能ということか。

事務局:そのとおりと考えている。

委員:次回の協議会はいつ頃になるのか。

事務局:青谷バスを4月から運行し、ある程度その運行の状況が落ち着いた段階でニーズ調査をさせていただきたい。その集計ができた後に、ダイヤ等の見直しについて協議をお願いしたい。また、共助交通の検討をまちづくり協議会をお願いしたいと思っている。その検討状況等についてもお話しさせていただきたい。

【共助交通の検討状況】

委員(日置地区):青谷駅や支所、買い物などに行くにも8~9キロと結構な距離があるため、不便を感じる方もいる。そう考えると、まち協としても共助交通を検討する必要があるということで、担当を置き、これから検討していこうという状況。やはり4月からの市有償運送がどういう状況になるのかということも見ながら、より深く考えていく必要がある。また、日置谷地区とも一緒に考えていく必要があるとも思っている。

委員(勝部地区):まだ一切何もやっていない。ただ、まちづくり協議会の役員さん方には、いつ共助交通になるかもしれないよという危機感を持ってもらうような説明はしている。ただ、勝部だけで運行主体になるのは大変なため、中郷との連携を考える必要があると考えている。

委員(青谷地区):青谷地区については関心が低いので、こういう話はまだ出ていない。